

● 避難の心得

いざという時のために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。

 <p>状況により、すばやく避難しましょう 避難情報などが発表されていなくても、状況などから判断し、自主的に避難しましょう。</p>	 <p>浸水時、自動車での避難は危険 普通自動車は約30cmの浸水で走行困難になります。浸水時、自動車での避難は危険です。</p>
 <p>浸水時に長靴は厳禁 避難には運動靴が最適です。長靴は水が入ると歩けなくなります。動きやすい服装で避難しましょう。</p>	 <p>家族には連絡メモを残そう 外出中の家族には、「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくといいでしょう。</p>
 <p>防災メモを持とう 高齢者や子どもは、事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。</p>	 <p>集団で助け合おう 単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。</p>
 <p>持ち出し品は最小限に 非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。</p>	 <p>安全なルートで避難 避難場所への経路は、川べりや地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。</p>

※避難施設に着いたら、係の人の指示に従い、住所・氏名を報告しましょう。

● 水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難準備・高齢者等避難開始や避難勧告が発令されていても、がけや浸水区域から離れる（水平避難）だけでなく、近くの頑丈な建物の2階以上や自宅の2階といった高い場所へ移動（垂直避難）して救助を待つという判断も必要です。



浸水後の避難 やむを得ず移動する場合は…



▶ 歩ける深さ

浸水時に歩ける深さは膝くらいまで。腰まで浸かって歩くと体力を消耗します。また、水深20cm位でも、流れが速い場合は危険を伴うことがあるので注意が必要です。



▶ 足元に注意

浸水により足下が見えにくくなることで、道路と側溝や水路等の区別がつかなくなります。長い棒などで深い場所がないか安全を確認しながら歩きましょう。